

第3回「福島県イノベーション・コスト構想の 具体化に関する県・市町村検討会議」議事概要

○日 時：平成27年2月19日（木） 13：30～15：00
○場 所：ホテルサンルートプラザ福島「芙蓉」

1 開 会

2 挨 捶

【福島県企画調整部長】

本日は東北農政局様、パナソニック（株）様、南相馬市様から、プレゼンテーションをいただきますとともに、農業・エネルギーの各分科会の検討状況の報告をしたい。

3 プレゼンテーション

（1）スマート農業に関する農林水産省所管の補助制度について
資料1－1～1－3を【東北農政局】から説明

[問] 先端プロの事業の実施主体は、個別の農家単位ではやっていないのか。

[答] これは先端技術の現場段階での実証なので、研究機関単体でも農家単体でもダメ。コンソーシアムと呼んでいますが、農家、研究機関、あるいは行政機関も入る協議会のようなものをつくって、手を挙げていただくという仕組みになっている。

[問] 展示効果も期待しているとのことだが、これらを実証して、株式会社のようなところで展開するイメージか。個別農家のような小規模なところで展開するイメージか。

[答] 個別農家や民間企業を分けて考えているわけではない。こちらで取れたデータを示すことで、被災地や他の地域でも自分たちでも取り組めると思ってもらうことが大事。

宮城のいちご園地では、周辺の農家がご覧になって、うちでも導入したいというような効果も確認されていると聞いている。

[問] こういった先端的なプロジェクトをやっていくのと併せて、イノベーション・コースト構想では浜通り地域全体の農林水産業を盛り上げいくために、いかにこれを面的に展開できるかというところが大事な要素である。

展示効果以外に先端の取組を周辺の農家さんへ広めるようなお知恵があればお聞かせいただきたい。

[答] 成果を発信していくこと。技術の実証だけでなく、経営分析も行っており、こうしたデータも併せて発信していくことで普及につなげていく。

(2) C L Tにかかる現状と課題について

資料2を【パナソニック（株）エコソリューションズ社】から説明

[問] 福島県内で具体的にご提案のアイデアに向けて動いているようなところはあるか。

[答] ない。浜通りの帰還事業としてうまく合わせられればよい。

[問] ネックはC L Tの生産・材料のコスト。例えばこれで復興公営住宅を造るときの値段は通常のR C等で造るときと比べて、どれくらいの価格差が出るのか。

[答] 50万m³の生産工場が稼働すれば、R C造と同じ値段で作れると考えられている。実証実験でも坪100万円ぐらいでできており、普通の住宅でも坪50万程度なので2倍程度。非常に将来性は明るい。

（資料2「C L Tの普及に向けたロードマップ参照」）

[問] 放射能への対応について。

[答] 湯川村の方でいろいろと計っているが、全く検知されていない。

(3) パナソニックによる植物工場の取り組みについて

資料3を【パナソニック（株）A V Cネットワークス社】から説明

[問] コストはどうか。

[答] 設備に関しては設置する場所の広さ、使う建屋大きさに合わせて規模を決めるが、ざっくりいうと1億円の設備投資で1日に100キロぐらいの生産、年間360日稼働するとして36トン程度の生産ができる設備ができるとお考えいただければ大体の目安になると思う。

[問] 葉物の価格は普通の農家と比べてどうか。高めになるのか。

[答] ほぼ同じ。流通の中では、植物工場だからといって高く引き取ってもらえるものではなく、あくまでも小売価格に対して卸値が決まってくる。それにあわせて販売している。

[問] 植物工場の運営主体はどういったものになっているのか。どんな主体でもできるのか。

[答] 大事なことは、経験や特別なノウハウ、技術が要らないこと。会社としての運営を小規模でもきちんとできることが一番大事。できれば食品の流通に関わっているところと何らかのコンタクトがある方がよい。民間レベルで考えると投資をどのくらいで回収するかということになるので、そういう意味での経営感覚は重要。

(4) 南相馬市の現状とイノベーション・コスト構想の実現に向けた取組について

資料4を【南相馬市】から説明

[問] 平成27年度開所予定の研究開発施設とあるが、具体的な話があれば教えていただきたい。(13ページ)

燃料資源作物の導入に関して何かあれば教えてほしい。(18ページ)

[答] (民間のロボット研究開発施設) 菊池製作所様で小高地区に工場を新設した。その中で大学の研究者の方たちを集約して共同研究施設として個別の研究ブースを作つて入っていただくということを企業側で検討している。

資源作物については、実際どのように面積を広げていくかなどはこれからの話になる。企業サイドでは量産化やシステム化という話が出てい るようだが、まだ途上の話。

4 協議・報告事項

- (1) 県のイノベーション・コスツ構想関連予算について
資料 5-1～5-3 を【事務局】から説明
- (2) 国の個別検討会における検討状況について
資料 7 を【事務局】から説明
- (3) 福島浜通りロボット実証区域（仮称）について
資料 8 を【事務局】から説明
- (4) エネルギー関連産業検討分科会及び農林水産分野検討分科会の検討状況
について
資料 9 を【エネルギー関連産業検討分科会事務局】から説明
資料 10 を【農林水産分野検討分科会事務局】から説明

- 次回の予定

- 3月下旬開催予定